



認定 NPO 法人

富士山測候所を活用する会

【様式 1】

夏期観測 2023 研究速報(プロジェクト報告書)

1.氏名

(和文) 加藤俊吾

(英文) KATO Shungo

2.所属

(和文) 東京都立大学

(英文) Tokyo Metropolitan University

3.共同研究者氏名・所属

(和文)

(英文)

4.研究テーマ

(和文) 富士山頂における一酸化炭素、オゾン、二酸化硫黄の夏季の長期測定と火山ガスの越冬観測

(成果)

富士山頂で一酸化炭素計、オゾン計、二酸化硫黄計を設置し、2023年7月15日から8月23日までの大気測定データを取得した(図)。一酸化炭素とオゾンはおおそ似たような長期的な変動をしているが、短期的には個別にピークがみられるようなことがおこなっていた。遠方からの長距離越境汚染だけでなく、比較的近傍からの影響もあると考えられる。二酸化硫黄は7月末に2回高めの濃度が見られた。一酸化炭素に同期した変動がみられないため、他の火山ら噴煙の影響をとられていたと考えられる。これまで継続しておこなってきた火山ガスセンサーによる通年観測を引き続きおこなうため、センサー交換充電などをおこなって、引き続き観測結果をリアルタイムで公開するようにした。

(英文) Long term observation of carbon monoxide, ozone, and sulfur dioxide during summer and volcanic gas monitoring year around at the summit of Mt. Fuji

(Results)

Carbon monoxide, ozone, and sulfur dioxide were measured at the summit of Mt. Fuji during summer in 2023. CO and O3 showed similar concentration variation, but high SO2 were only observed around July 27-29. Monitoring of volcanic gases using electric gas sensors were conducted and the obtained data were uploaded to the public website.

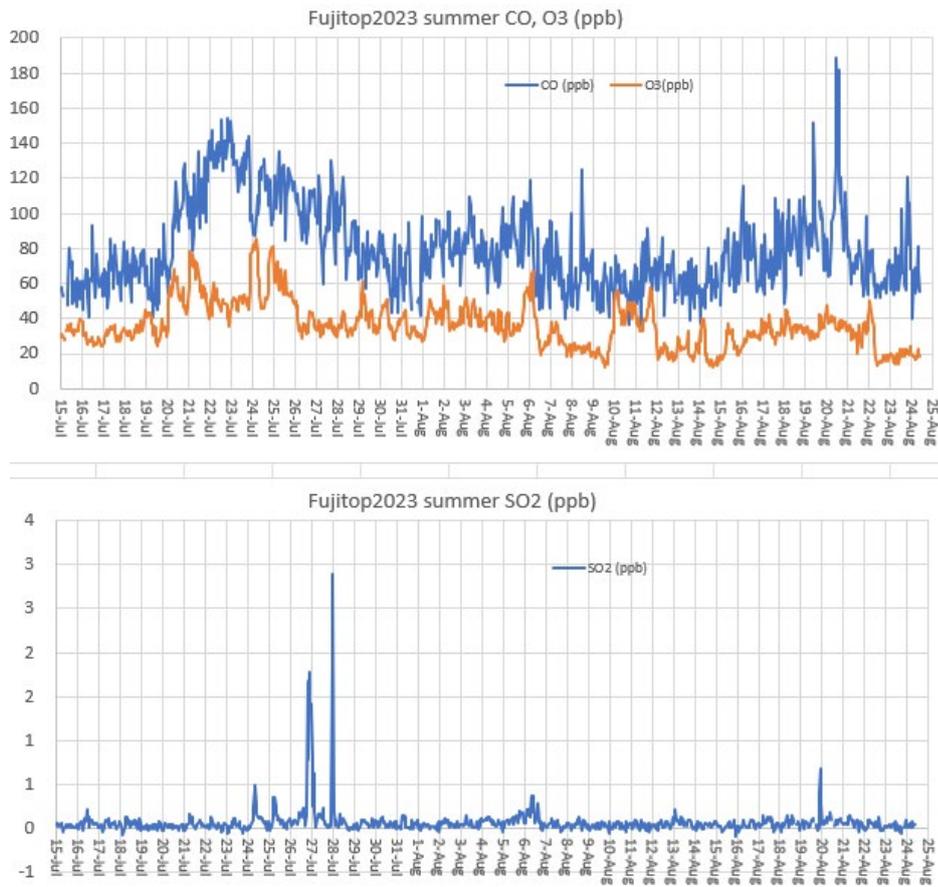


図 富士山頂で測定した2023年7—8月の一酸化炭素・オゾン（上）、二酸化硫黄（下）の濃度変動